

「ひなたの学び」ハイスクール・ネットワーク構築事業

① 研究開発の目的 多様な学習ニーズに対応するとともに、柔軟で質の高い学びを確保する教育課程の実現

【実施体制】

■ ネットワーク構成校



県内高校（19校）で構成された
宮崎県域教育コンソーシアム

■ 連携機関



宮崎県教育研修センター内に設置された
不登校の児童生徒向け支援施設

■ 運営指導委員

- 岡本尚也 氏（Glocal Academy 代表理事）
- 小林博典 氏（宮崎大学教育学部 教授）

② 研究開発で解決したい課題

急激な少子化の中、地域で育ち、学び続けることができる高等学校の在り方を検討するため

- 地理的状況や学校規模によるリソースの制約に依らない教育環境の整備
- 多様な生徒が自分らしく学び、仲間とともに高め合う「ひなたの学び」の実現

③ 令和7年度の具体的な取組



配信担当教員
研修プログラム

- 県内モデル3校を対象とした研修プログラムを実施（授業公開を含む）

学校の垣根を
超えた探究活動

- 県外有識者による探究ワークショップ&対話型セッションの実施



通信教育に
関する調査研究

- 通信教育用教材の公開（地歴、情報）
- 通信教育を活用した単位の履修修得に関する実証研究

④ 令和7年度の成果と課題

- 授業改善の視点から遠隔授業“ならでは”の実践モデルを創出することができた。
- 通信教育の活用に対する共通理解と運用フローを整理し、県内に普及させる必要がある。

⑤ 今後の展望

- ① 中心拠点を整備し、持続可能な運営体制を整備する。
- ② 配信を担当する教員を育成するプログラムを実施する。
- ③ 通信教育を活用した自律的学習の実践事例を創出する。

「ひなたの学び」ハイスクール・ネットワーク構築事業

遠隔授業に関する取組

【取組1】総合的な探究の時間（教師支援型）

オンライン探究フォーラム

講師：中山隆 宮崎大学特別講師 受講生：約250名

本日のテーマと概要

100分de探究やってみる

—学校をテーマにあれこれ考え、深め、言葉にする—

本プログラムは、探究学習をはじめてやってみる、または、はじめたばかりの高校生を対象とする。（もう数年やっているという方は、一旦立ち止まって、**アンラーン（まなびほぐし）**してみましょう）。

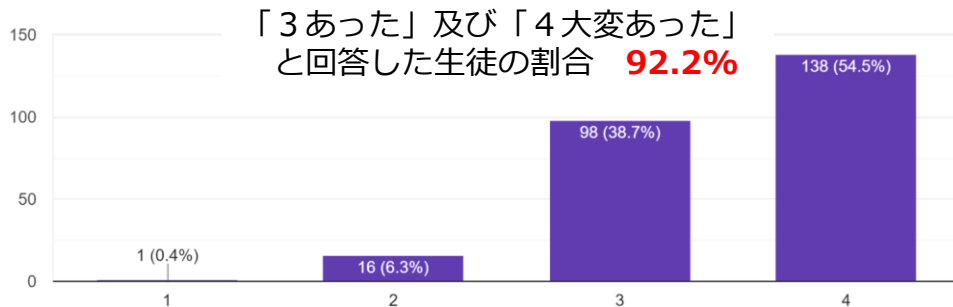
探究学習は時間がかかるもの、自分の中からテーマが湧き上がるもの、進路につながるもの、等いろいろなと言われているが、そうとも言えるし、そうでないとも言える（と少なくとも中山は思っている）。

今回、「学校」をテーマに、そもそもを考える面白さ、枠にはめることで見えてくる世界の多様性、話し、比べることで見えてくる新しい視点、そのような活動を「100分」で終える探究として挑戦していく。



他学校の生徒と一緒に学ぶことで、新たな学びや気づきが生まれましたか（4段階の主観評価）

253件の回答



■参加した生徒からの感想（抜粋）

- ・意見の多様性を保つには、さまざまな特徴を持つ人を集めることが必要であると感じた。
- ・サポーターからの質問で自分リサーチクエスチョンについてもっと深く考えることができ楽しかったです。また、みんなの温かいコメント嬉しかったです。

【取組2】地歴公民科（教師支援型）

教師支援型授業（地理探究）

授業者：上田指導教諭 受信校：高千穂高校（4名）



オンライン授業公開（地歴公民）

配信校：県内モデル3校 受信校：県内モデル3校

※同時時間帯に双方向で実施



■受講生徒のアンケート調査結果（学びの評価システム）

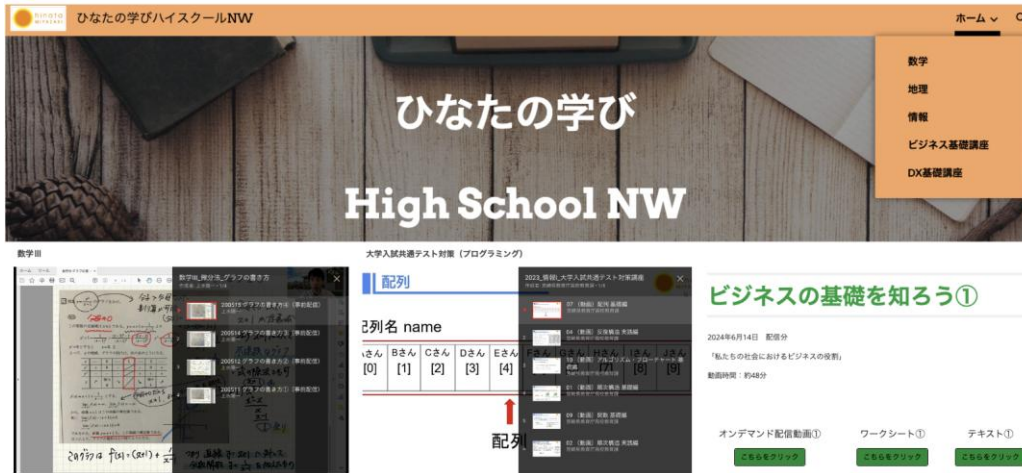
- ① 理解度：学習内容をより理解できるようになった **92.7%**
- ② 自律性：自ら意欲的に学習できるようになった **93.5%**
- ③ 協働性：他者と協働して学習できるようになった **89.6%**

「ひなたの学び」ハイスクール・ネットワーク構築事業

通信教育に関する取組

【取組1】通信用教材（学びのコンテンツ）の作成

学びのコンテンツ(通信教材)



(写真) プログラミング指導に関する通信教材の開発に向けた勉強会

■ 参加した教員からの感想（抜粋）

・ 専門人材（民間エンジニア）のアドバイスを受けることができ、大変勉強になった。また、県内の先生方と一緒に考えることで、現場のニーズに沿った教材の方向性を協議することができた。

【取組2】単位の履修・認定に関する実証研究

単位認定を想定した活用

3 通信教育実施計画（令和7年度「地理総合」年間指導計画）

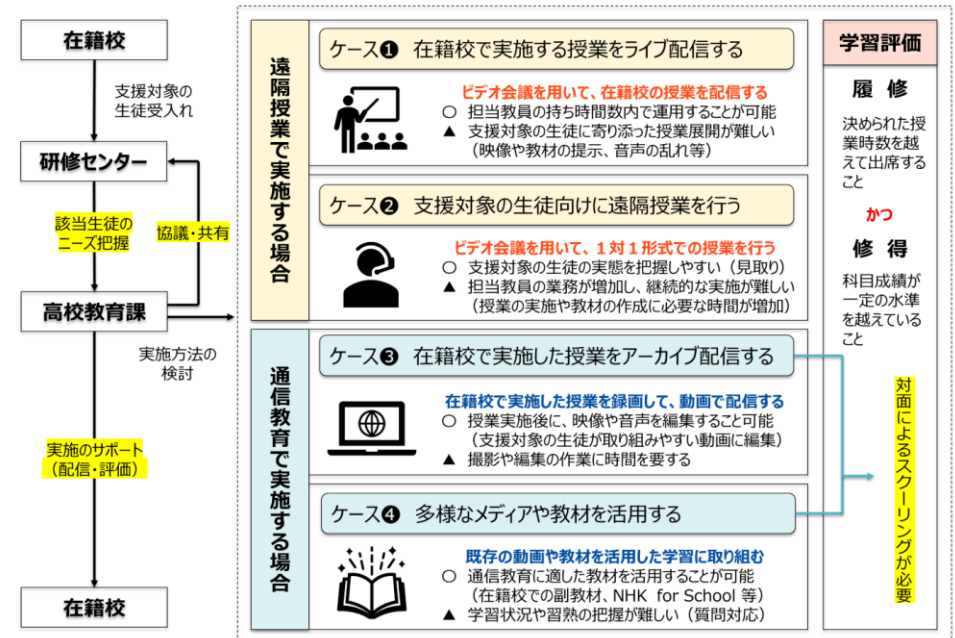
(1) 学習方法について

次の学習方法にて、約60時間（3,600分）に相当する教育活動に取り組み、単位認定を行う

学習方法	指導計画	必要時間(回数)と換算する時間
①面接指導【スクーリング】	教科担任による面接指導 年間10回の実施 (単元の区切り等にて実施)	(必) 50分×2回=100分 + 50分×8回=400分 計 500分
②添削指導【プリント・課題】	・ 単元プリント添削(14回) ・ 課題問題添削(4回)	(必) 50分×6回=300分 + 50分×12回=600分
添削指導【レポート】	夏休み課題、冬休み課題 単元のレポート	50分×2回=100分 (必) 50分×6回=300分
③試験	・ 2学期中間・2学期期末 ・ 課題テスト・学年末	(必) 50分×1回=50分 50分×3回=150分
④多様なメディアを活用した学習	県から提供された「地理総合」の動画教材コンテンツ	約20分×80本=1,600分
合計時間		3,600分



上田指導教諭@五ヶ瀬中等が作成した教材(約80本)を活用



(図) 不登校支援を想定した遠隔授業・通信教育の運用フロー